

「共有して生きることは可能か。」 使徒の働き 2章 40～47節

今日の聖句のような共同生活が果たして可能なのでしょうか。残念ながら殆ど無理でしょう。それは、「神の教えに従って、夫としての分を果たし、常に妻を愛し、敬い、慰め、助けて変わることなく、その健康の時も、病の時も、富める時も、貧しき時も、いのちの日の限りあなたの妻に対して堅く節操を守ることを誓います。」という神の前の誓いを、夫婦共に守って過ごしていることは殆どないことよって明らかです。

それは人間生活の理想であり、憧れであり、そういう教会があったら「民全体から好意を持たれていた。主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてください。」(47)となるでしょう。

なぜ、それが実現しないのでしょうか。それは、そのように生きる姿を知らないし、術を知らないからです。聖書に従わないからです。

私は、貧しい草履商の9人目に生まれ、理想の家庭も人間関係も、学問も芸術も文化も、全くわかりませんでした。小学2年くらいの際に、医者の子の田中君の家に行って、ピアノがあり、優しいご両親と可愛い妹さんがいる豪華な家に驚きました。お父さんに車でどこかへ連れて行ってもらった時は、こういう生活があるのかと感心したものです。クリスチャン一家だそうで、本や映画に出てくる理想的な生活で、優しくて美しい夫人と紳士の父親にも驚きました。私は、将来このような生活がしたいと心から願ったものでした。多くの本や映画も私の心に理想を植え付けました。

音痴と教養を身に着けようと努力し、吹奏楽部にも入り、映画も絵画もよく観ました。スポーツとは縁のない家でしたが、水泳、スキー、スケート、卓球など努力しましたが、運動神経の悪さに落胆しました。前橋高校は文武両道の男子校なので、優秀な友人たちばかりでした。

そのように努力を積み重ねたので、大学に入るとリーダーになつていました。しかし、友人や社会人との交友の中で、自分つまらない人間に随していくような気がいつもしていました。

そして、信仰の道に入ったのです。クリスチャンになつてわかったことは、「御霊に属する人、肉に属する人、キリストにある幼子」(1コリント3・2)がいることでした。謙遜で祈り深く聖書もよく読み、奉仕も真摯にする信者の存在は、私にはこれまでにない衝撃でした。年下の私にも敬語で話し、自分勝手ではなく、人を配慮した行動を取る人々がいるという事は、感動でした。このような人と一緒に教会生活を営むほかに、自らの罪性や傲慢さを感じて、謙遜になるように心がけたものでした。この人々は、肉に属する人々に躡くこともなく、普通に交流して

いました。そして、私のような信仰の初心者を手助けできるようにしてくださったのでした。明らかに魂の救われた人々は、未熟な人や罪人に躡くことなく、喜びの内に教会生活を営んでいたのです。

印象的だったのは、敬虔なご主人の妻が、ちゃんばらんできちんとしていなかった場合でした。でも、その方は妻のため、教会のため、仕事のため、いつもごく祈っていました。そのご生涯は、私に強い感化を与えました。その方は、今は天に凱旋し、名誉を受けているでしょう。その方の敬虔さに依存し、助けられた人々や家族もまた、敬虔で平穩な信仰生活を過ごしておられるようです。

多くの人々が集い、「肉に属する人、信仰の幼子」も多にいる教会で、今日の聖句が可能ならには、少なくとも3割の献身者が必要です。夫婦喧嘩をし、あからさまに伴侶の悪口を言う人は論外です。怖いことに、老化は聖化を明らかにしていくようです。

自助努力のできない人が、高齢者だけでなく、子供や青年、そして、成人にも多くなっています。夫婦だけでなく、依存関係が強すぎるので、一人では生きていけないのです。言い訳ばかりです。

祈祷会では、「**邪悪な日に際して、一切を成し遂げて堅く立つことができるように**」(エペソ6・13)と語りました。これからは、とても一人では生きていけないでしょう。そして、人の心の邪悪さが表に出てくるようになるでしょう。

終わりの邪悪な時代に、教会が強くて聖くなければ、教会員は耐えていけないでしょう。私自身は、「心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。隣人を自分自身のように愛しなさい。」(ルカ10・27)を実践して生きるだけです。

残念ながら、自分のことばかり考え、人にも教会にも仕えていない人は、神から与えられた賜物を隠していた怠け者として、「**外の暗闇に追い出せ、そこで泣いて歯ぎしりするのだ。**」(マタイ25・30)の通りになるでしょう。全てをご存知な神に言い訳は通じません。

コロナを怖がった教会は、勢いをなくしています。信者のご機嫌を取った教会は、奉仕する者がいなくなり、崩壊しています。努力を怠った人々も、生活を破綻させています。終末とは、誘惑や惑わしに左右された自己破壊の時代なのです。

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

2. 真理と祈りと讚美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讚美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチャンは成長し、祝福される。

5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

【新改訳 2017】

使 2:40 ペテロは、ほかにも多くのことばをもって証しをし、「この曲がった時代から救われなさい」と言って、彼らに勧めた。

2:41 彼のことばを受け入れた人々はバプテスマを受けた。その日、三千人ほどが仲間に加えられた。

2:42 彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。

2:43 すべての人に恐れが生じ、使徒たちによって多くの不思議とするしが行われていた。

2:44 信者となった人々はみな一つになって、一切の物を共有し、

2:45 財産や所有物を売っては、それぞれの必要に応じて、皆に分配していた。

2:46 そして、毎日心をつにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、

2:47 神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださいました。

【NKJV】

Act 2:40 And with many other words he testified and exhorted them, saying, "Be saved from this perverse generation."

2:41 Then those who gladly received his word were baptized; and that day about three thousand souls were added to them.

2:42 And they continued steadfastly in the apostles' doctrine and fellowship, in the breaking of bread, and in prayers.

2:43 Then fear came upon every soul, and many wonders and signs were done through the apostles.

2:44 Now all who believed were together, and had all things in common,

2:45 and sold their possessions and goods, and divided them among all, as anyone had need.

2:46 So continuing daily with one accord in the temple, and breaking bread from house to house, they ate their food with gladness and simplicity of heart,

2:47 praising God and having favor with all the people. And the Lord added to the church daily those who were being saved.